

**5月24日(火)**

**14:45-16:15**

**(4 講目)**

**608 教室**

近年の日中関係は、歴史認識や領土主権をめぐり、相互認識にさまざまな齟齬が生じています。そもそも、近代化以降、日本と中国の相互認識はどのような変遷を経て、現在に至ったのでしょうか。今回講師としてお呼びする馬場公彦さんは、岩波書店で書籍の企画、編集に携わりつつ、日本人の対中認識についての数多くの論考を発表されているかたです。出版メディアから見ると、近代の日中関係はどのように捉えることができるのか。示唆に富む話をお聞きすることができると思います。ぜひご参加ください。

### 講師プロフィール

**馬場 公彦** (ばば きみひこ)

岩波書店編集局第一編集部部長、岩波現代全書編集部編集長、デジタルコンテンツ事業部部長。

1981年北海道大学文学部卒業、1983年北海道大学文学部大学院東洋哲学研究科修了、文学修士。2010年早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程単位取得修了、学術博士。千葉大学文学部、東京大学教養学部、立教大学21世紀社会デザイン学科などで非常勤講師を務める。

著書に『戦後日本人の中国像・日本敗戦から文化大革命・日中復交まで』(新曜社、2010年、大平正芳記念賞受賞)、『現代日本人の中国像——日中国交正常化から天安門事件・天皇訪中まで』(新曜社、2014年)など。

講演会

「出版メディアを通してみた

日中関係この120年

——交錯する相互認識」